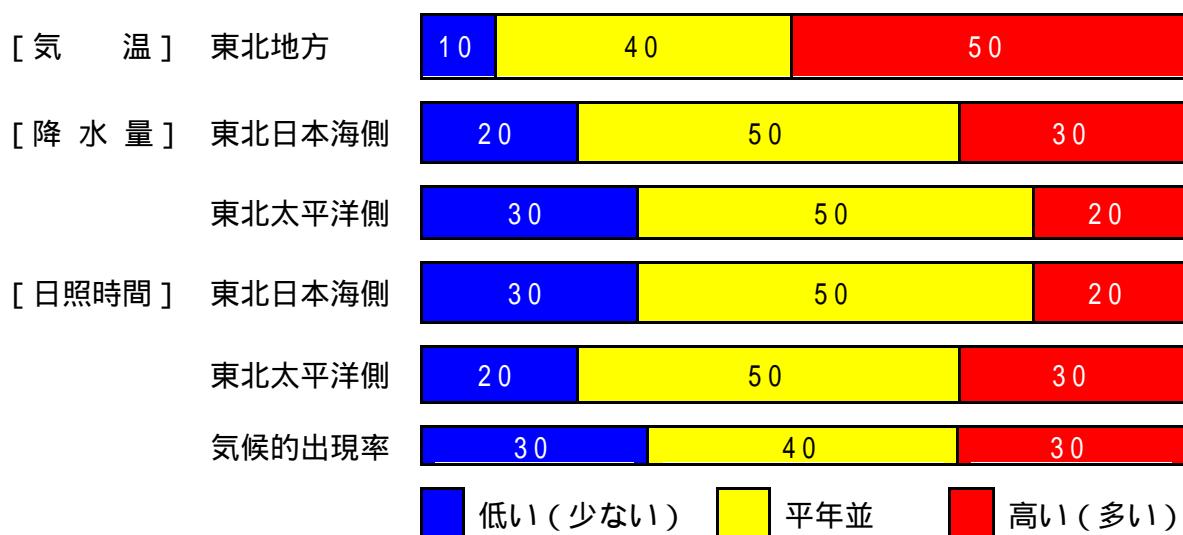


東北地方1か月予報の解説(予報期間:9月23日~10月22日)

平成12年9月22日 仙台管区気象台

1. 向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)



[気温]: 東北地方は「高い」の可能性が最も大きく、その確率は50%です。次に大きい確率は「平年並」で、その確率は40%です。「低い」の可能性は10%と小さい。

[降水量]: 東北日本海側は「平年並」の可能性が最も大きく、その確率は50%です。次に大きい確率は「多い」で、その確率は30%です。「低い」の可能性は20%と小さい。東北太平洋側は「平年並」の可能性が最も大きく、その確率は50%です。次に大きい確率は「少ない」で、その確率は30%です。「多い」の可能性は20%と小さい。

[日照時間]: 東北日本海側は「平年並」の可能性が最も大きく、その確率は50%です。次に大きい確率は「少ない」で、その確率は30%です。「多い」の可能性は20%と小さい。東北太平洋側は「平年並」の可能性が最も大きく、その確率は50%です。次に大きい確率は「多い」で、その確率は30%です。「少ない」の可能性は20%と小さい。

2. 予想される天候の特徴

(もっとも高い確率の予報が実現した場合の天候は以下の通りです。)

向こう1か月

天気は数日の周期で変化するでしょう。期間の中頃は、東北太平洋側を中心に晴れる日が多い見込みです。

平均気温は高いでしょう。平年の晴れ日数は、東北地方で約18日です。

各予報期間の天候の特徴

1週目…………… 期間の中頃まで気圧の谷の影響で曇りの日が多く雨の降る所がある(9月23日~9月29日) るでしょう。その後は、概ね晴れる見込みです。

平均気温は高いでしょう。

平年の晴れ日数は東北地方で約4日です。

2週目…………… 天気は数日の周期で変化するでしょう。東北太平洋側を中心に晴れる(9月30日~10月6日) 日が多い見込みです。

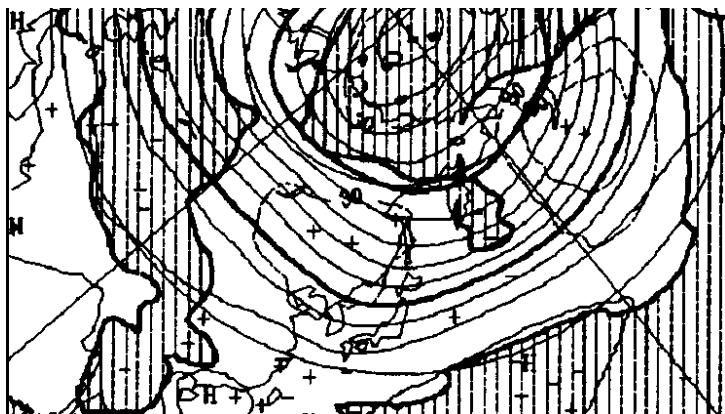
平均気温は高い見込みです。

平年の晴れ日数は東北地方で約4日です。

3~4週目………
(10月7日~10月20日)

天気は数日の周期で変化するでしょう。
平均気温は平年並の見込みです。
平年の晴れ日数は東北地方で約8日です。

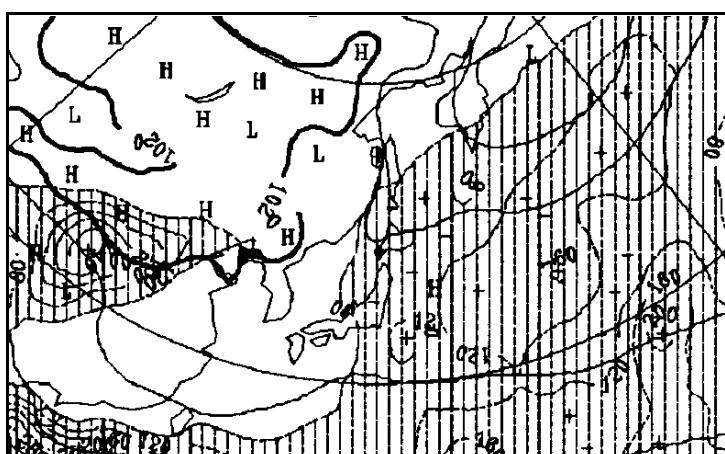
予想される天候に関する循環場の特徴(アンサンブル平均天気図)



・500hPa高度・偏差

月平均で見ると、日本付近は東西に広く正偏差に覆われ、東西流が卓越しており、天気は周期的に変化する。

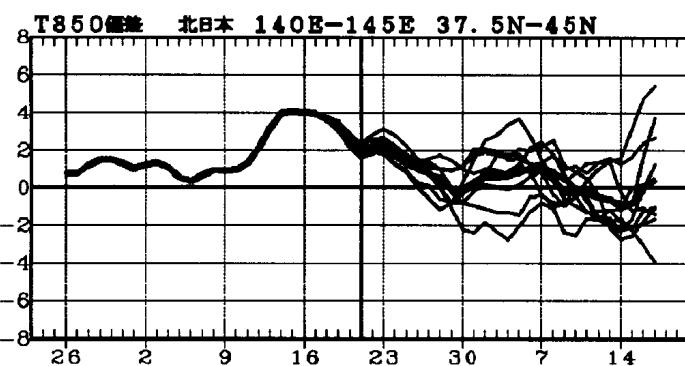
週別(図略)では、1週目は日本付近は負偏差に覆われ、低気圧の影響をうけやすく曇りや雨の日が多い見込み。2週目以降は月平均同様正偏差に覆われ、周期変化の場。



・地上気圧と降水量

月平均で見ると、日本付近は東西に広がる高圧部となっており、まとまった降水域はかかっていない。

週別(図略)では、1週目に北日本を中心ややまとまった降水域がかかる。2週目にはまとまった降水域は東北地方にはからない。3~4週目に東北日本海側に弱い降水域がかかる。

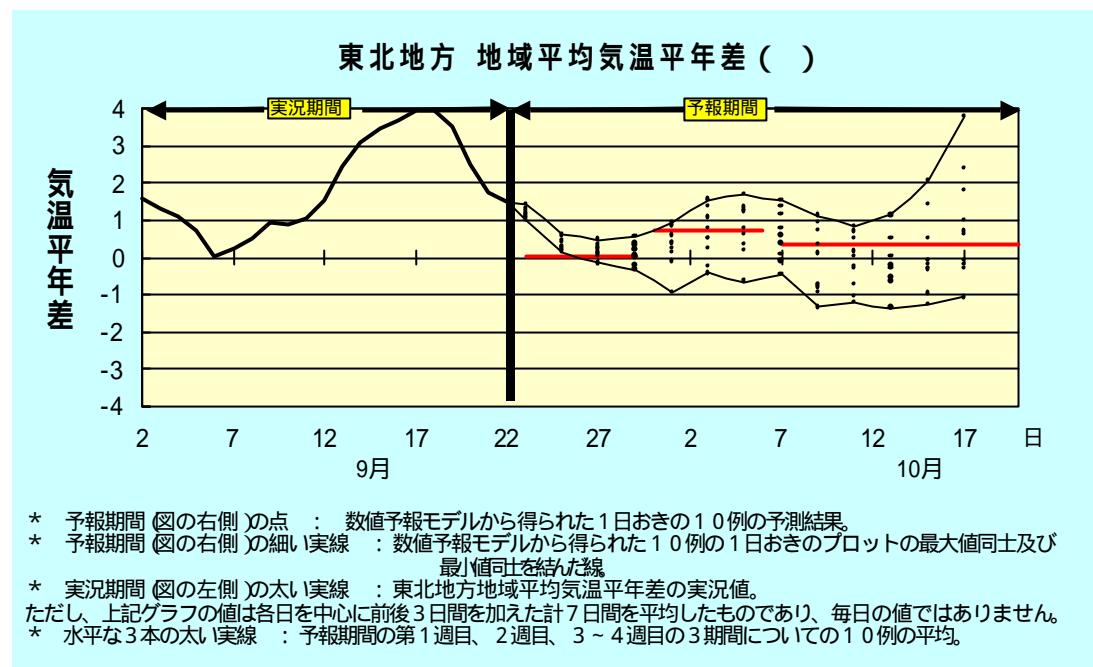


・北日本 850hPa 気温平年差の時系列
アンサンブルメンバーの平均は、1週目は高め。2週目は平年並~高めで推移し、後半からは平年並~低めとなる。ただし、2週目以降のばらつきは大きい。

発表日以降の太線は各アンサンブルメンバー(細線)の平均値

3. 東北地方地域平均気温平年差の実況と予測結果

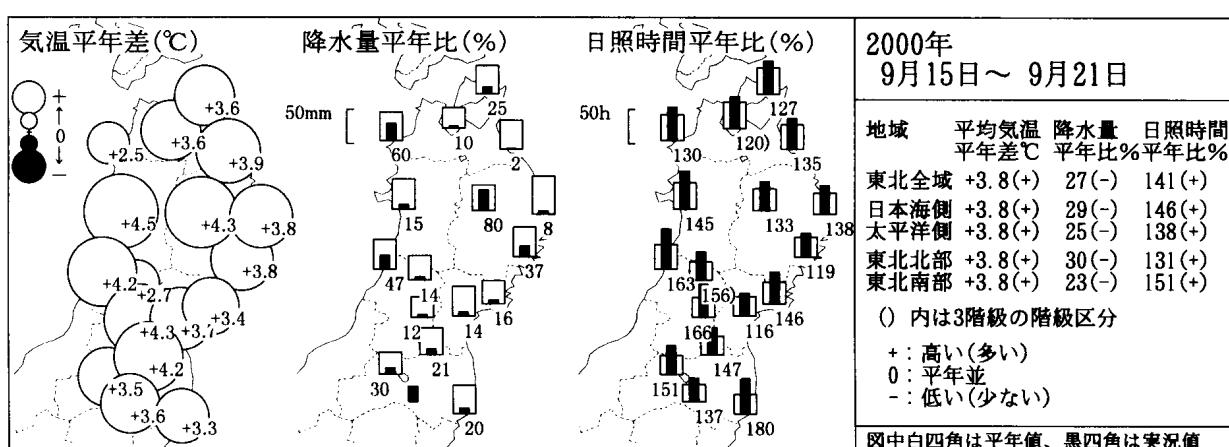
週別の気温は、1週目は平年並、2週目は高く、3~4週目は平年並。ただし1週目は週間予報資料を参考に「高い」とする。また、4週目はばらつきが大きくなるが3週目までは、多くのメンバーが同様の傾向を示しており、予報の信頼度は普通程度。



4. 最近1週間(9月15日~9月21日)の天候の経過

15~16日は、東北地方は日本の東海上から張り出した太平洋高気圧に覆われた。このため、東北太平洋側では湿った東風の影響で曇りとなるところが多かったが、東北日本海側では概ね晴れて気温も上昇し、真夏日や熱帯夜となるところもあった。17日は寒冷前線が東北地方を通過し雨となつたが、その後は三陸沖を北上した台風第17号の影響も小さく、移動性高気圧に覆われて晴れるところが多かった。

平均気温は、東北地方で平年差+3.8と平年より高かった。降水量は、東北地方で平年比27%と平年より少なかった。日照時間は、東北地方で平年比141%と平年より多かった。



最近1週間の平均気温、降水量及び日照時間の平年差(比)